

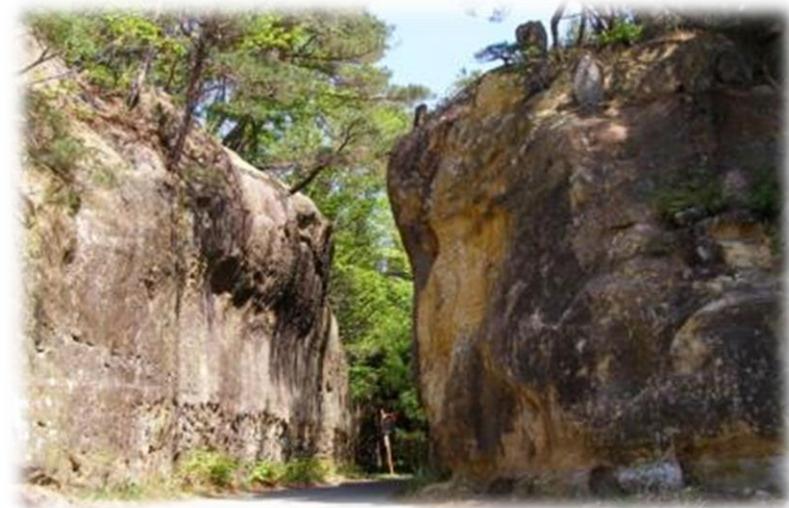


長野自動車道 (仮称)筑北スマートインターチェンジ
ちくほく

実 施 計 画 書



長野県 筑北村



U
K
O
H
U
K
I
H
C

01 路線名



[路線名] 中央自動車道 長野線
[道路名] (E19)長野自動車道

筑北村は、長野県のほぼ中央部に位置し、長野市から約30km、松本市から約20kmに位置しています。北は千曲市・麻績村・長野市、東は上田市・青木村、南は松本市、西は安曇野市・生坂村に接しており、東西約15km、南北約12km、総面積は99.5km²で役場付近の標高は612mです。四阿屋山をはじめ岩殿山、冠着山など象徴的な山々を背景として、東条川、安坂川、麻績川などが形成した河岸段丘や緩やかな傾斜地に集落が散在しています。

広域交通網としては、長野自動車道および一般国道403号が中央部を通り、南端に一般国道143号が通っていますが、筑北村内に長野自動車道のインターチェンジは無く、隣接する麻績インターチェンジ（麻績村）と安曇野インターチェンジ（安曇野市）間の距離は23.2kmで、長野県内を通る高速道路のなかで最も長い区間となっています。

特に筑北村西部の本城・坂北地域は、近傍の麻績インターチェンジまでの距離が約10kmとなる地区があり、当地域にスマートインターチェンジを整備することにより、村民の利便性の向上と地域間交流の促進、災害緊急時の避難・輸送路としてのリダンダンシーの確保、交流人口の増加と観光周遊性の向上、物流網強化による企業誘致の促進といった多くの効果が期待され、これらを実現するためにスマートインターチェンジを整備するものです。



02 連結位置及び連結予定施設



[連結位置] 長野県 東筑摩郡 筑北村 西条小仁熊地内
[連結予定施設] 上り線 村道滝上北線
下り線 村道滝上北線

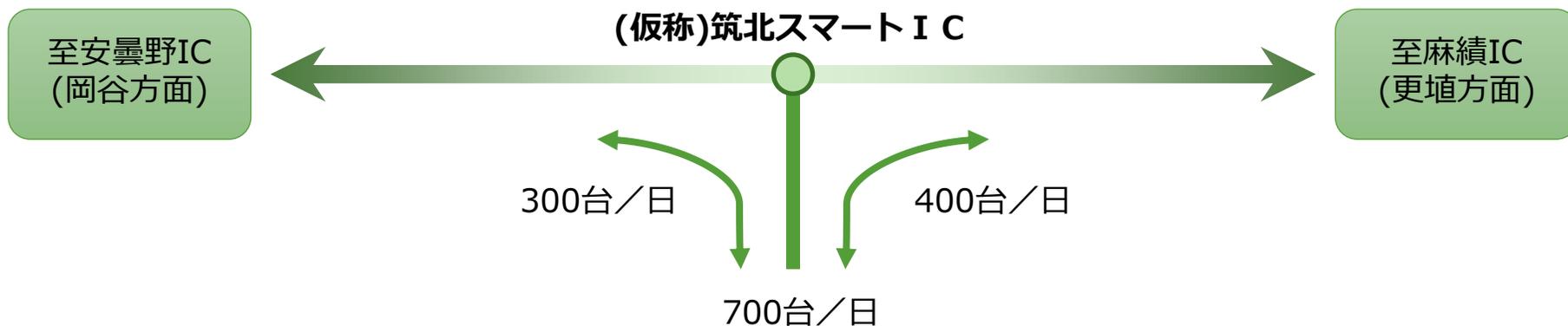




1 計画交通量

■ 計画交通量 700台/日(H42)

※1)計画交通量は、ETC利用率の「90%」を考慮した数値



2 供用予定時期

■ 供用予定時期 平成35年3月



運用時間： 24時間
 対応車種： ETC車載器を搭載した全車種
 利用形態： 一旦停止型、フルインターチェンジ（上り・下りともに入出可）
 監視員配置体制： 隣接IC等の料金所からの遠隔監視・対応を基本とするが、安全確保のため供用直後は監視員を配置する場合もある。なお、遠隔監視・対応の体制については、今後、関係機関と協議していくものとする。

★基本的な料金車種区分表

車種区分	自動車の種別名称	ナンバープレート			法令による自動車の構造基準等						
		車種番号	プレートの大きさ	プレートの色	自動車の大きさ			最大積載量	車両総重量	乗車定員	排気量
					長さ	幅	高さ				
軽自動車 (二輪自動車含む)	二輪自動車 (側車付含む)	—	小板	白地に緑文字 緑地に白文字							125cc 超
	軽自動車 (三輪含む)	0**3* 6**8*	小板	白地に緑文字 緑地に白文字							360cc 以下
		4***5**	普通板	黄地に黒文字 黒地に黄文字	3.4m 以下	1.48m 以下	2.0m 以下				660cc 以下
普通車	小型自動車 (三輪含む)	4***5** 6***7**	普通板	白地に緑文字 緑地に白文字	4.7m 以下	1.7m 以下	2.0m 以下				ガソリン車は 2000cc以下
	普通乗用自動車	3**	普通板	白地に緑文字 緑地に白文字							
中型車	普通貨物自動車 (3車軸以下)	1**	普通板	白地に緑文字 緑地に白文字				かつ 5t未満	8t未満		
	マイクロバス	2**	普通板	白地に緑文字 緑地に白文字					かつ 8t未満	11~29人	
	普通貨物自動車 (トラクタ単体2車軸)	1**	大板	白地に緑文字 緑地に白文字							
大型車	普通貨物自動車 (3車軸以下)	1**	大板	白地に緑文字 緑地に白文字				又は 5t以上	8t以上		
	普通貨物自動車 (トラクタ単体3車軸)	1**	大板	白地に緑文字 緑地に白文字							
	普通貨物自動車 (単体で4車軸で車両制限令限度以下)	1**	大板	白地に緑文字 緑地に白文字	12m 以下	2.5m 以下	4.1m 以下		20~25t 以下		
	バス(中型)	2**	大板	白地に緑文字 緑地に白文字	9m 未満				8t以上	29人 以下	
	バス(路線) (路線バス指定を受けている車)	2**	大板	白地に緑文字 緑地に白文字					又は 8t以上	30人 以上	
特大車	バス(大型) (路線バス以外で車長9m以上または 乗車定員30人以上)	2**	大板	白地に緑文字 緑地に白文字	9m 以上				又は 8t以上	30人 以上	
	普通貨物自動車 (単体で4車軸以上で車両制限令限度超)	1**	大板	白地に緑文字 緑地に白文字	12m 以上	2.5m 以上	4.1m 以上		20~25t 以上		
	大型特殊自動車	9**	普通板	白地に緑文字 緑地に白文字							



① 高速道路の利便性向上

- 高速道路IC利用10分圏域の拡大
- 西条駅(村役場)周辺からICまでの所要時間短縮

② 地域工業の発展

- 筑北村内の雇用創出

③ 地域農産業の支援

- 中京圏への朝取り野菜出荷の負担軽減
- 関東圏等の販売圏域の拡大

④ 地域救急医療の支援

- 筑北村から第2次救急医療施設までの救急搬送時間短縮

⑤ 地域防災機能の向上

- 第1次緊急輸送路のリダンダンシーの確保
- 周辺地域との物資輸送の円滑化

⑥ 交流人口の増加と観光周遊性の向上

- 観光関連施設への所要時間短縮
- 筑北村内の観光周遊性向上による観光客の創出



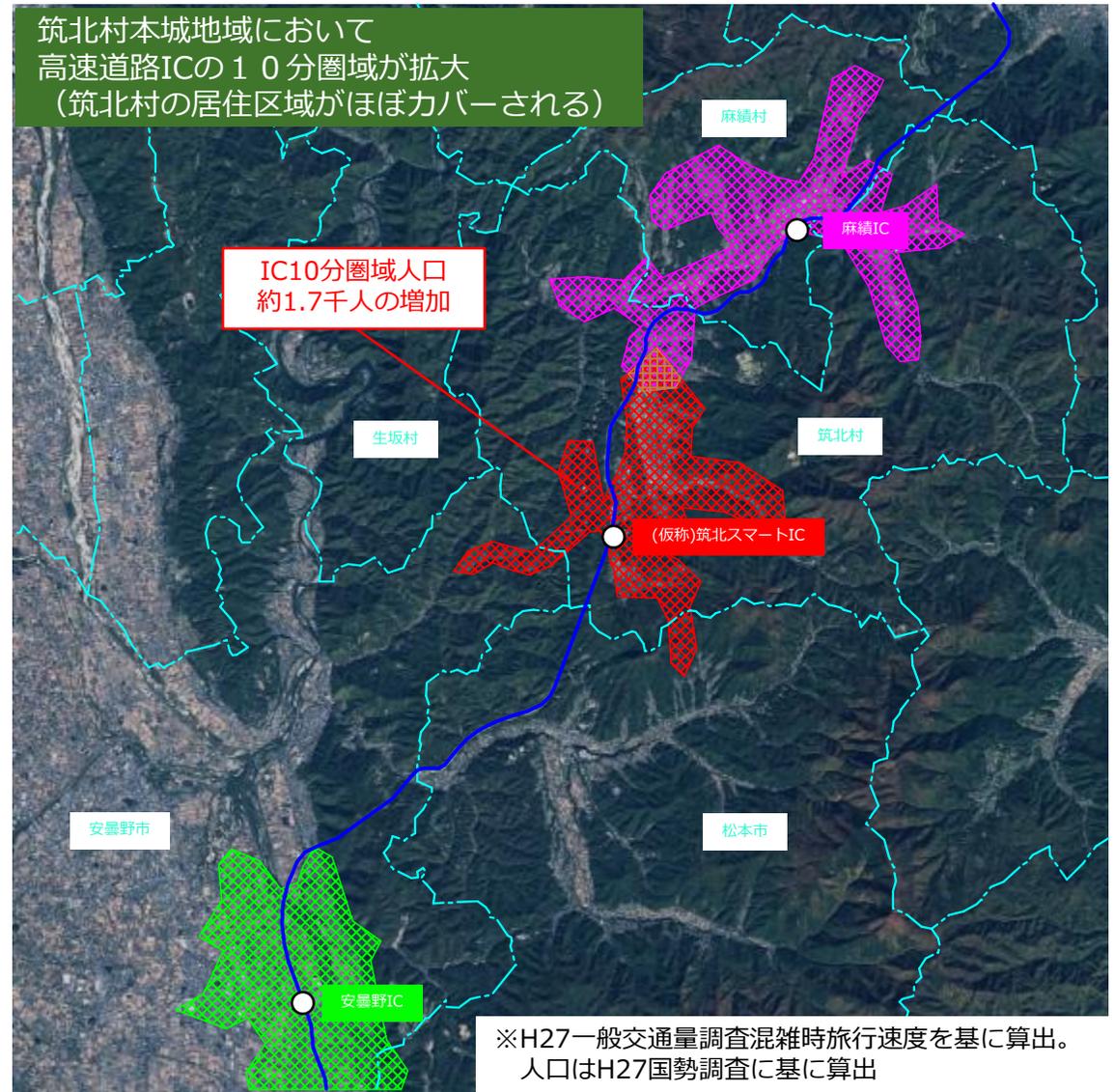
① 高速道路の利便性向上(1)

スマートIC整備により高速道路インターチェンジのアクセス10分圏域が拡大し、筑北村の居住区域がほぼ全域カバーされる。

これにより住民及び周辺地域の高速道路利用者の利便性が向上することは勿論のこと、長野地域及び松本地域との産業や観光等の事業活動が活性化されることが期待される。

また、筑北村住民へのより公平な行政サービスの簡略化が期待できるとともに、松本市北部、安曇野市北部等の住民への高速道路の利便性の向上も期待できる。

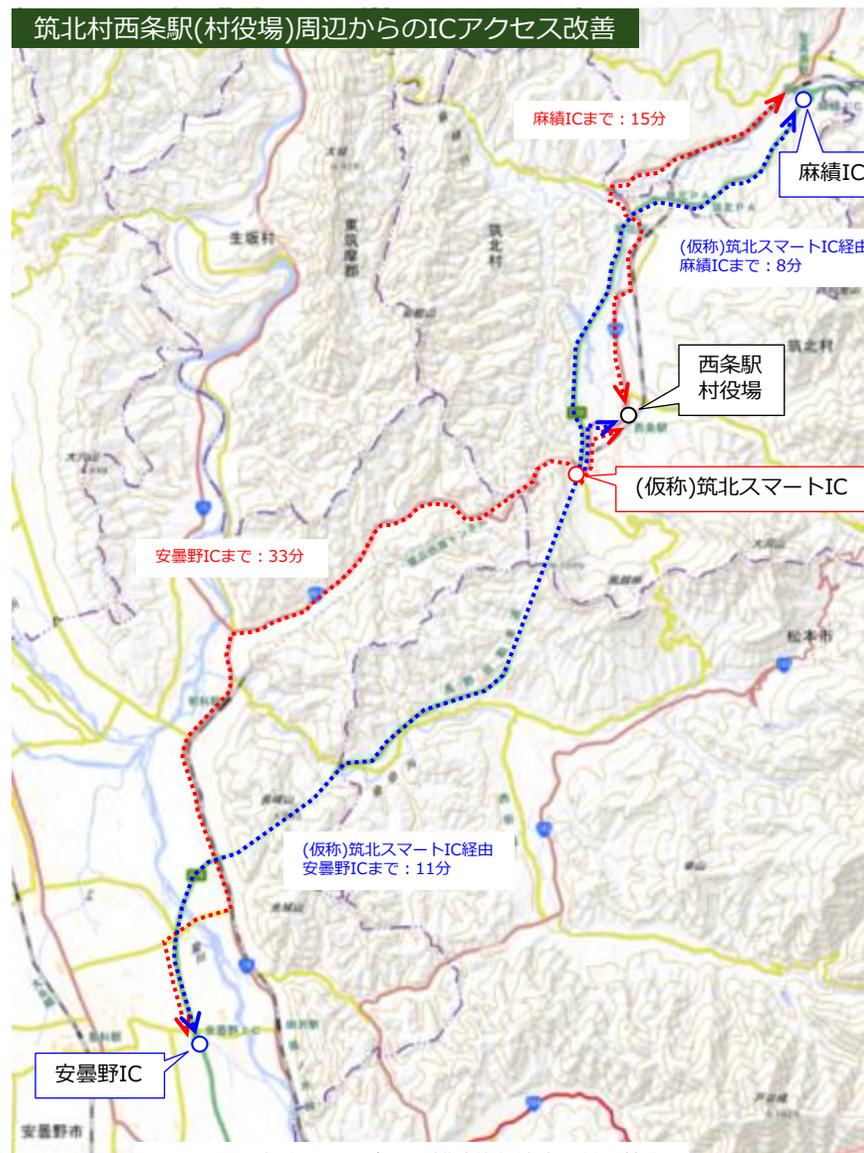
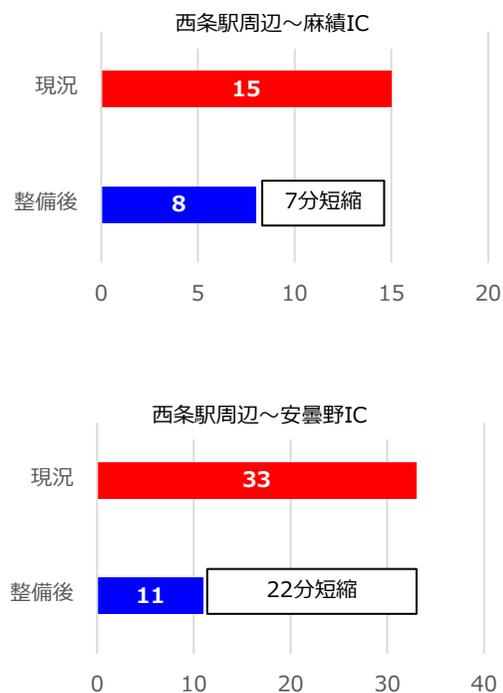
凡 例	
	(仮称)筑北スマートICの10分圏域
	麻績ICの10分圏域
	安曇野ICの10分圏域





① 高速道路の利便性向上(2)

スマートIC整備により西条駅(村役場)周辺から麻績ICまで(仮称)筑北スマートICを利用した場合に整備前の15分から整備後は8分と7分の短縮。同様に安曇野ICまでは整備前の33分から整備後は11分と22分の短縮になる。特に生活圏である松本方面の時間短縮が大きく、周辺地域や都市との交流促進、さらには産業や観光等の事業活動の活性化に期待できる。



※ H27一般交通量調査の混雑時旅行速度を基に算出



② 地域工業の発展

スマートICを整備し、IC周辺の遊休地に企業や工場を誘致した場合、県内の有力都市とのアクセスは1時間を下回る。松本市とは現況で45分のところ30分を下回り、安曇野市とは現況30分が15分となり、地域連携の貢献に期待できる。

また、新たな企業の加入による就労の場の確保や、工業振興による地域経済の活性化が期待できる。筑北村のまち・ひと・しごと創生総合戦略の人口ビジョン資料より、筑北村からの転出者が多く、その理由の上位に就職・転職等がきっかけとなっており、筑北村の就労の場の創出は急務である。経産省のデータから誘致候補地3.3haで76人の雇用創出を見込む。



※走行時間はmap上の試算による参考時間

※経済産業省の平成28年工場立地動向調査結果より
 ・工場立地件数 : 1,026件
 ・工場立地面積 : 1,297ha
 ・雇用予定従業者数: 29,965人
 以上のデータから1ha当たり23.1人の雇用創出とした。

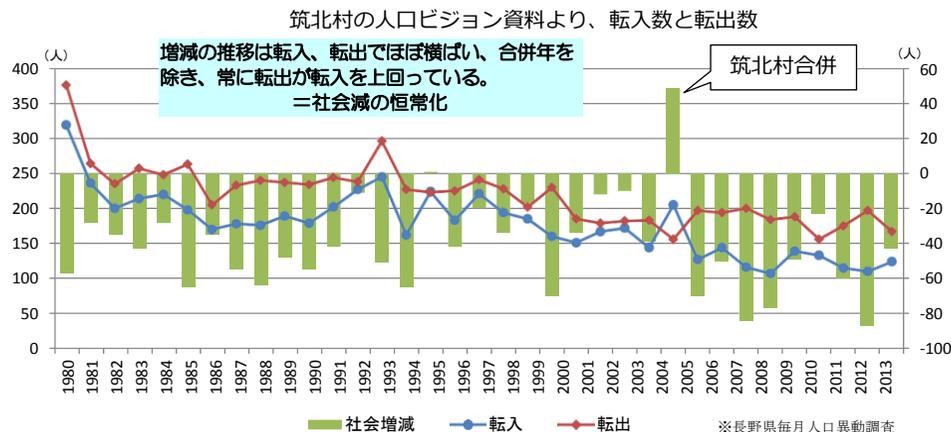


図4 転入数と転出数の推移 (1980年-2014年)

筑北村の居住者・転出者向けアンケートより、転出者の年齢ときっかけ

問11	転出時の年齢	※択一回答	回答数	%
2	20～24歳		27	18.5
3	25～29歳		27	18.5
4	30～34歳		21	14.4
1	19歳以下		16	11.0
5	35～39歳		15	10.3
9	55歳以上		13	8.9
6	40～44歳		12	8.2
8	50～54歳		8	5.5
7	45～49歳		5	3.4
	無回答		1	0.7
	無効		1	0.7
	合計		146	

問14	転出のきっかけ	※複数回答	回答数	%
5	結婚		51	34.9
9	その他		24	16.4
2	ご自身の就職		21	14.4
3	ご自身の転勤・転職		21	14.4
1	ご自身の進学		18	12.3
6	新居の購入		7	4.8
4	ご自身の退職		5	3.4
8	ご家族の退職		4	2.7
7	ご家族の転勤・転職		3	2.1
	無回答		1	0.7
	合計		146	

※出典：筑北村まち・ひと・しごと創生総合戦略(H28.3.23) 参考資料より

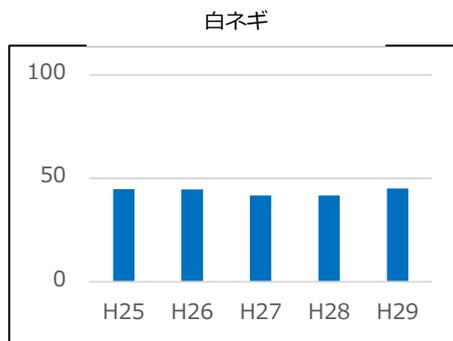
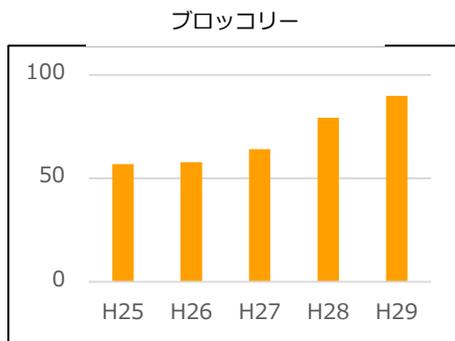
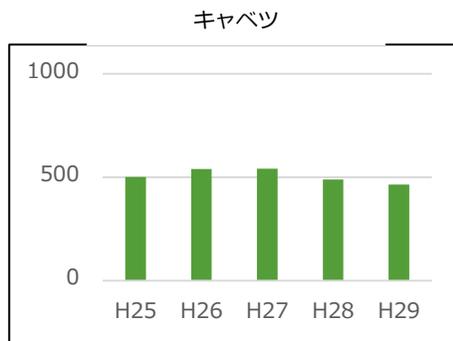
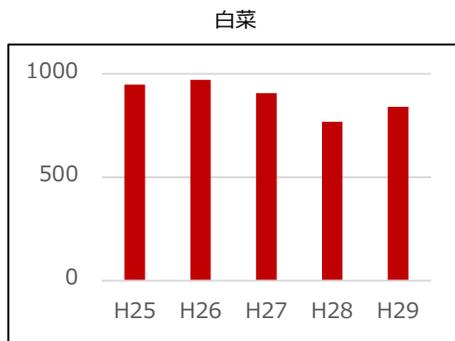


③ 地域農産物の支援

スマートIC整備により、筑北村の名産品である「西条白菜」等を朝取り新鮮野菜として中京圏(松本)へ出荷する際に負担(高速料金・時間)が軽減することにより、筑北村農産物への新規就農者の増加によりさらなる活性化と、新たな地域(関東圏等)に出荷地が拡大していくことも期待される。

また、筑北村の主な生産野菜の中でも白菜やキャベツ、白ネギの出荷量が伸び悩んでおり、スマートIC整備によって販売圏域の拡大は取扱量の向上に期待できる。

筑北村の主な野菜の出荷量 (単位: t)



※JA松本ハイランド聞取り

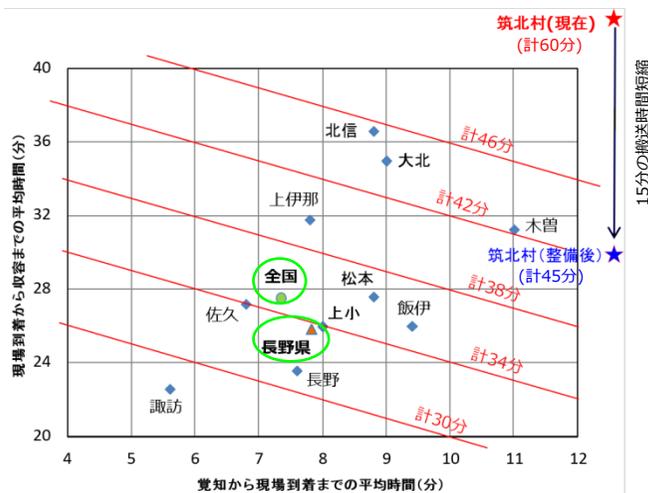




④ 地域救急医療の支援

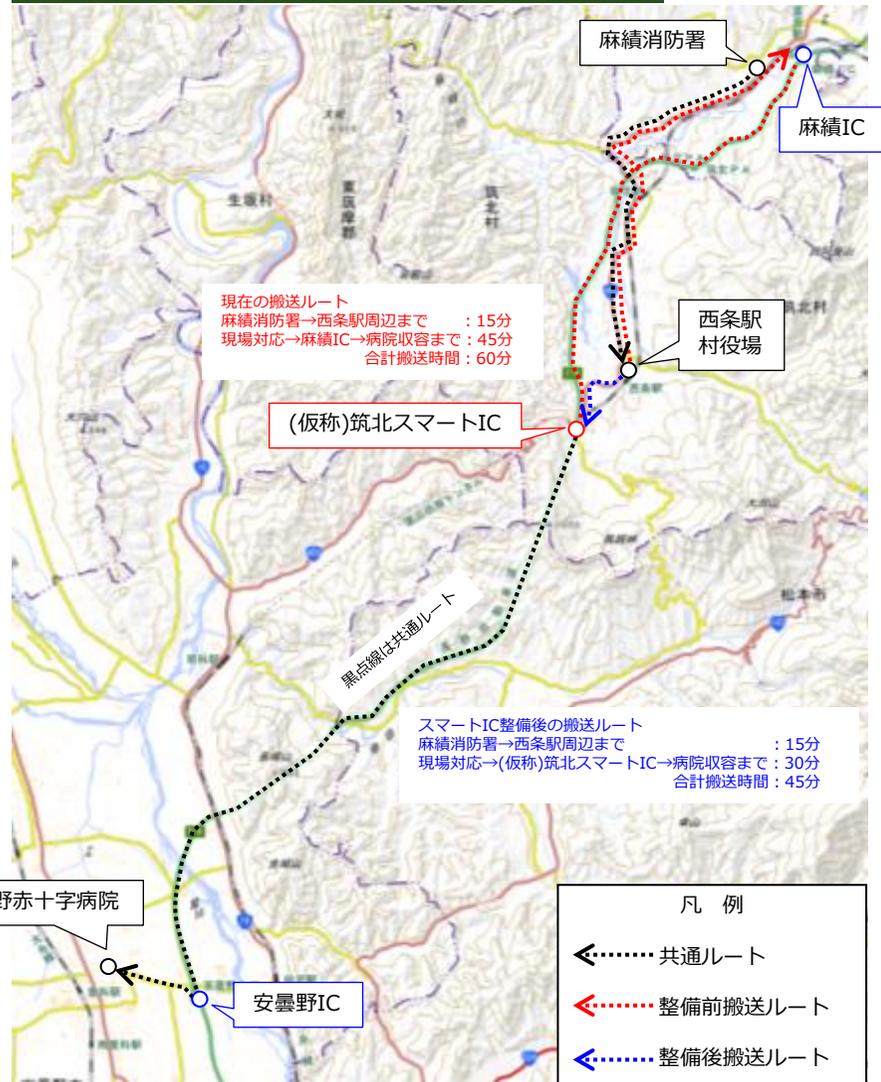
現在は筑北村における、最寄りの第2次救急医療施設(安曇野赤十字病院)まで搬送にかかる時間は、右図に示す通り救急隊の出動指令から現場到着まで15分、現場対応から病院収容までは45分程であるが、全国及び長野県の平均はそれぞれ8分程と26分程である。スマートIC設置により現場対応から病院収容まで30分となり、平均値と同程度になることが期待できる。

図 長野県の二次医療圏別 救急搬送の平均時間 (2012年度)



出典：長野県地域医療構想(H29.3)P12より抜粋を修正

筑北村西条駅(村役場)周辺の救急搬送ルートの変更



※H27一般交通量調査の混雑時旅行速度を基に算出
 なお、インターチェンジ内の走行時間は考慮していない

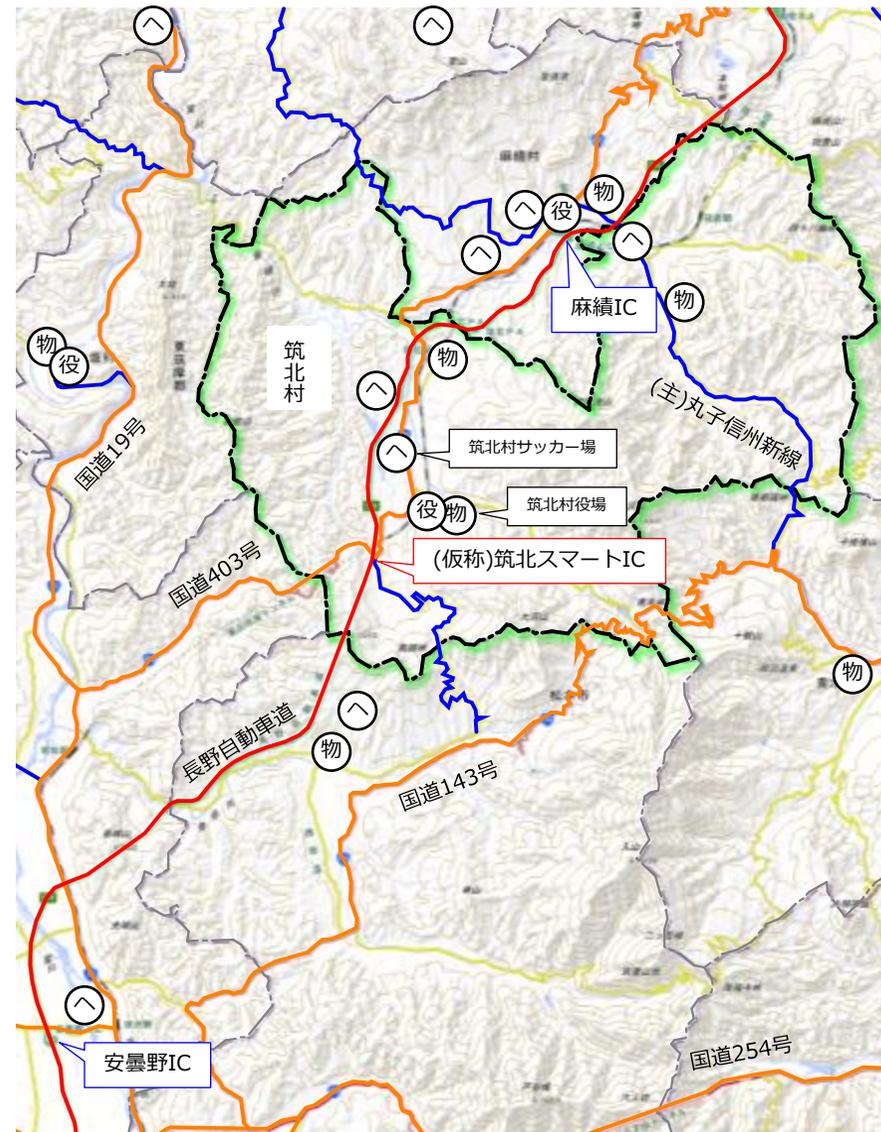


⑤ 地域防災機能の向上

スマートIC整備予定箇所は災害時の救急活動及び物資輸送の要である第1次緊急輸送路の長野自動車道と国道403号の交点であり、リダンダンシー確保の点からもアクセスICを設置することは緊急援助隊等の活動拠点施設及び物資輸送拠点、ヘリポートのみならず、周辺地域の防災拠点へのアクセス向上につながり、災害時の迅速な救援・復旧等への対応が可能となる。

また、災害対応拠点及び物資輸送拠点と、高速道路の出入口が直近となるため、高速道路のネットワークを生かした防災・復旧活動が可能となり、防災機能が向上する。

凡 例	
	: 第1次緊急輸送路(高速)
	: 第1次緊急輸送路(他)
	: 第2次緊急輸送路
	: 防災拠点 (役場・物資輸送拠点・ヘリポート)



出典：信州くらしのマップ（防災）



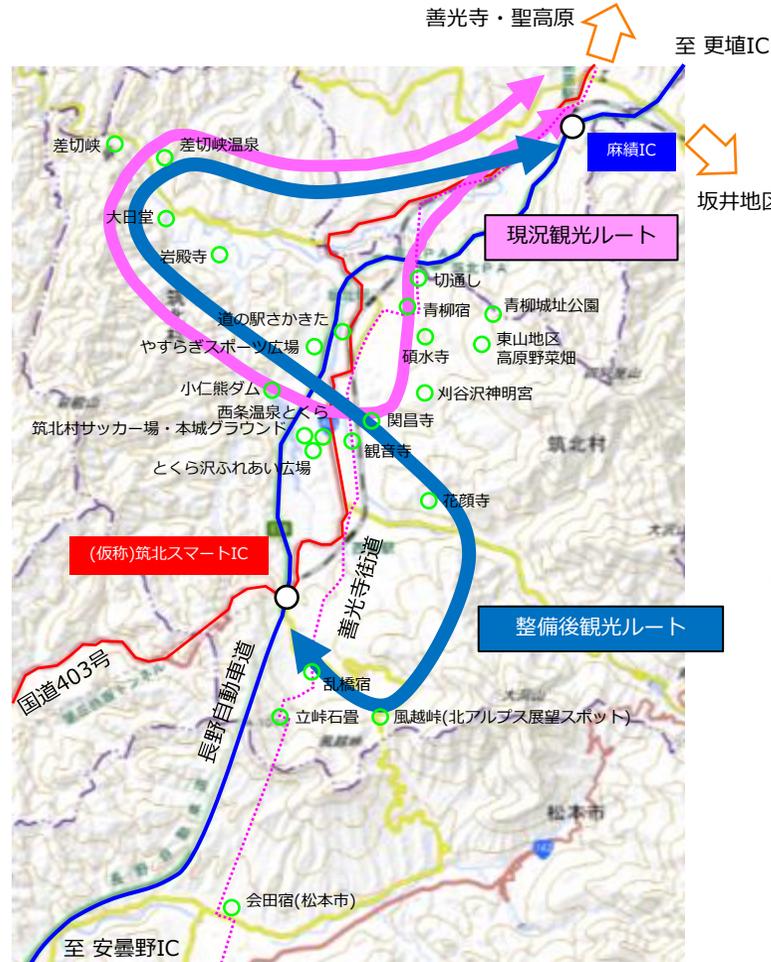
⑥ 交流人口の増加と観光周遊性の向上

宿泊施設の「西条温泉とくら」と、その周辺に配置されたサッカー場、野球場、体育館では、各種競技の大会が多く開催されている。

スマートIC整備により、松本方面から「西条温泉とくら」までのアクセスは、麻績ICを経由するこれまでのルートに比べ約13分短縮され、これにより、施設利用者の増加が期待される。筑北村は2027年に開催される長野国体の競技地誘致を目指しており、2022年の誘致内定に大きなメリットとなる。

また、善光寺街道の村内での起点となる「立峠石畳跡」までがスマートICから約3kmとなり、周遊性の向上が期待できる。加えて、松本市北部「会田宿」までも麻績ICから20km及び安曇野ICから13kmに比して、スマートICから10kmとなるので、麻績ICに比べ約10km、安曇野ICに比べ約3km短縮されることになり、行政界を超えての周遊性や交流人口の増加などに資することができる。

※H27一般交通量調査の混雑時旅行速度を基に算出
なお、インターチェンジ内の走行時間は考慮していない



※[]は、H28年度の年間集客数実績



(仮称)筑北スマートICの設置による社会便益は次のとおりであり、十分な社会便益が確認できる。

- | | | |
|-----------------------------|---------|----------------------------|
| ①高速道路の利便性向上 | | |
| ● 高速道路IC利用10分圏域の拡大 | | 約1.7千人増加（筑北村居住地域のほぼ全域をカバー） |
| ● 西条駅(村役場)周辺からICまでの所要時間短縮 | 安曇野IC方面 | 約22分短縮 |
| | 麻績IC方面 | 約7分短縮 |
| ②地域工業の発展 | | |
| ● 筑北村内の雇用創出 | | 約76人 |
| ③地域農産業の支援 | | |
| ● 中京圏への朝取り野菜出荷の負担軽減 | | |
| ● 関東圏等の販売圏域の拡大 | | |
| ④地域救急医療の支援 | | |
| ● 筑北村から第2次救急医療施設までの救急搬送時間短縮 | | 約15分短縮 |
| ⑤地域防災機能の向上 | | |
| ● 第1次緊急輸送路のリダンダンシーの確保 | | |
| ● 周辺地域との物資輸送の円滑化 | | |
| ⑥交流人口の増加と観光周遊性の向上 | | |
| ● 観光関連施設への所要時間短縮 | | |
| ・ 西条温泉とくらへの所要時間 | 安曇野IC方面 | 約13分短縮 |
| ⑦交通円滑化による自動車利用者の経済効果 | | 約45億円（税抜き） |
| ・ 走行時間短縮便益 | | |
| ・ 走行経費減少便益 | | |
| ・ 交通事故減少便益 | | |
- ※金額は、供用開始年から50年間の合計値を現在価値化したもの。

07 整備前後におけるスマートICとその前後の既設ICにおける出入交通量



- 整備前後における(仮称)筑北スマートICと、その前後の既設ICにおける出入交通量は、未整備時の12,900(台/日)に対して、整備時は13,300(台/日)と、400(台/日)増加

表 近接ICの出入交通量(H42)

(単位：台/日)

路線	IC名	スマートIC 整備(a)	スマートIC 未整備(b)	交通量差 (a-b)
長野 自動 車道	安曇野IC	11,300	11,400	-100
	(仮称)筑北スマートIC	700	0	700
	麻績IC	1,300	1,500	-200
合計		13,300	12,900	400

※ETC利用率を90%とし、スマートICを利用していた非ETC搭載車に対してETC利用率により出入交通量の補正を行った